



カタクリに思う

この度、『常陸大宮市史 別編2 自然』が発刊されました。2017年から調査・執筆に関わってきた一人として感慨深いものがあります。予想以上の市域の広さを感じ、まだまだ未調査の地域もあります。期間の制約のある中でありましたが、同じ植物担当の藤田専門調査員と共にここまでやり終えられたこと嬉しく思っております。この調査の中で数多くの植物に出会えました。何度も何度も会っている植物、稀にしか会えない植物、初めて会った植物などです。その中で、ここでは「カタクリ」について書いてみたいと思います。

私が植物に関心をもち、山野を歩き始めたのはほぼ半世紀前の頃です。その頃、「カタクリ」と言えば、春先に目に入る代表的な植物のひとつでした。行く先々の野山には毎年のように見ることができました。しかし最近ではほとんど出会うことはありません。水戸市に住んでいる私の家の近くでもかつては見られましたが、今では見られなくなりました。

今回の調査に当たっては、どの程度の生育が見られるかが楽しみの一つでした。幸い何カ所かの生育地は確認できましたが、何とか見つけられたという感じでした。

四季の変化に富んだ日本の山野では四季折々に特有の花々が咲き揃います。特に明るいイメージ



▲カタクリ



茨城生物の会
中崎 保洋
自然部会 協力員

のある春には多くの花が目につきます。それらの中に「早春植物」と言われる一群の草本類があります。落葉樹林内やその林縁に生育しており、春先、まだ落葉樹の葉が出る前の明るい林内で、落葉の間から、芽を出し、葉を広げ、花を咲かせ、結実させます。初夏のころ、落葉樹の葉が茂り、林内が暗くなるころには、地上部の茎や葉は枯れて消えてしまいます。これらの植物はこのような短い生育期間で栄養分をたくわえ、翌年の発芽成長を続けていきます。「カタクリ」というのはこの「早春植物」の代表的なものです。市内では他にネコノメソウの仲間、ニリンソウ、イチリンソウなど10余種が見られます。

これらの植物は、現在市内で普通に見られることは少ないです。落葉樹林が少なくなっていることによると思われます。またカタクリのように、美しく目立つ花であることから心無い乱獲により減少したと思われるものもあります。これらは野にあるからこそ美しいのではないのでしょうか。

植物の生育状況は常に変化をしていきます。これからも常陸大宮市の植物の様子を観察し続けたいと思います。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化振興グループ 電話:52-1111(内線343)